

吉田佳道  
竹の花籠展  
涼々



あじろ花入 直径 30 高さ 40cm



黒竹縄目花籠 口径 13 胴径 22 高さ 21cm



くし目花入 口径 11 底径 35 高さ 23.5cm

二〇二〇年 四月十八日(土) ～ 二十六日(日) 会期中無休

GALLERY  
うつわノート

料金後納  
ゆうメール

長野県安曇野市の竹工芸家・吉田佳道さんの工房で竹ひごを作る工程を見せて頂きました。真竹を割り細かく裂いていく過程で、シュッシュッと竹を削る心地良い音がします。刃を土台に立ててひごの厚さを整えていく作業は、刃の角度調整や絶妙な力加減があり、その神経の細やかさが、作品の隅々まで届いていることが実感できます。編む技術以上に大切なのが、ひごづくりだと聞きました。真っ直ぐに見える竹も自然素材ですから、ひとつひとつクセがあります。その性質に合わせて巾決めと厚さの削り出しを手で加減しながら、鉋や小刀で幅2ミリ、厚さ0.25ミリに揃ったひごにしていきます。吉田さんの花籠の美しさはこの地道な積み重ねから生まれるのです。

直線的で清らかな素材、竹。竹林に入るとその清々しい空気に誰もが心洗われることでしょう。日本各地で植生し、昔から建材や生活道具として使われてきた身近な素材ですが、個人の工芸作家が花開くのは意外と遅く、明治時代に煎茶趣味と共に中国から入ってきた竹工芸がきっかけでした。現在は伝統工芸の技を極める領域を頂点に、生活道具の竹籠などを中心に作る若い作家も増えていきます。そのような中、吉田さんは暮らし側から見た竹の美の在り方を求め続けてきました。伝統工芸の特殊領域でもなく、また生活工芸の文脈とも一線を画しています。極に寄らずに両者の間に座する竹の可能性とは何か。竹と花が日常にもたらず凛とした空気。美と暮らしを繋ぐ竹の花籠の長年の提案は、吉田さんの矜持なのです。今展では吉田さんの竹の花籠を中心にしながら、茶釜筒、茶巾筒、盛り皿、コースターなども展示します。

展示会の副題は「涼々(そうそう)」。この季節、吉田さんが暮らし北アルプスからの雪解け水が流れる音と清らかな竹の美しさを重ねました。安曇野にもようやく本格的な春が訪れます。きっと店内も清廉な空気が流れることでしょう。

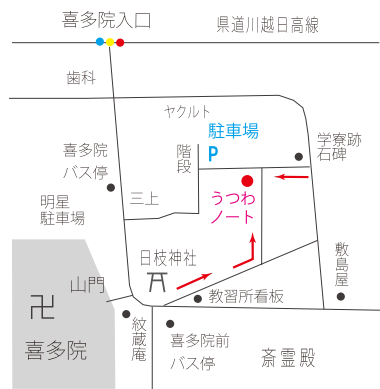
皆様のご来店をお待ちしております。 店主

## ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6

TEL: 049-298-8715

MAIL: utsuwanote@gmail.com



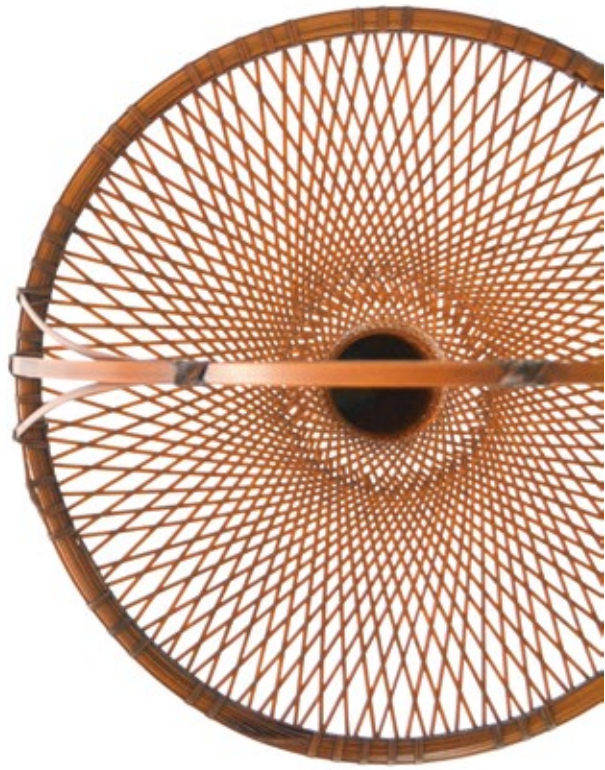
電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分

本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分

バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]

駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]

車：ギャラリー専用駐車場は北側(5～8番)



よしたよしみち  
吉田佳道プロフィール  
1962年 大阪府生まれ  
1988年 大分県別府にて竹工芸を学ぶ  
1993年 長野県安曇野市にて独立  
2020年 現在、同地にて制作

吉田佳道 竹の花籠展 涼々  
二〇二〇年 四月十八日(土)～二十六日(日) 会期中無休  
営業時間 十一時～十八時

作家在廊日 四月十八日・十九日



黒竹縄目手付花籠 幅22 奥行19 高さ15cm



涼々手付 幅38 奥行6 高さ11cm